

平成30年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略 評価シート【基本目標】

基本目標	1 子どもと子育てにやさしい「まち」								
	* 子どもが地域のなかで愛されて健やかにしていることが、まちの魅力となるとともに、大人になっても住み続けたい、将来戻ってきたいと思われまちになると言えます。このため、子どもを安心して産み、育てることができるよう、地域と行政が一体となり、子育て支援の充実、子育てと仕事の両立ができる環境の整備、子どもの「生きる力」を育む魅力ある教育環境づくりを進めることで、子どもと子育てにやさしいまちをめざします。								
指標	指標	単位	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	目標 (H31)
		年少人口の数	人	32,363 (H27年6月)	31,980	31,629	31,569	31,202	
	市民アンケートの「宝塚市は子育てがしやすい環境である」と思う市民の割合	%	48.5 (H26年度)	-	52.2	-	49.7		48.5以上
総合評価	基本目標実現のために取り組んだこと	<ul style="list-style-type: none"> ○出産・子育て支援の充実については、子どもの生育・発達や家庭状況に寄り添い、妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援を行っている。 ○子育てと仕事の両立支援については、男女で社会を支え、ともに育児、介護、地域社会に参画する男女共同参画社会の実現に向けて取り組んでいる。 ○「生きる力」を育む、次代の社会を担う子どもへの学校教育の充実については、学力向上、学校と家庭の連携、地域の教育力向上に取り組んだ。 							
	効果があった取組など	<ul style="list-style-type: none"> ○出産・子育て支援の充実については、子どもの生育・発達や家庭状況について、家庭訪問やアンケートの実施により把握ができた。児童虐待防止に向けたマニュアルの周知活動は、子ども達を守る仕組みとして効果があった。 ○子育てと仕事の両立支援については、男女共同参画社会の実現に向けてフォーラム、セミナーの実施など啓発活動が効果的であった。また、増える保育需要に対し、私立認可保育所2園整備に取り組み、あわせて、保育や放課後児童健全育成事業の質が低下しないよう職員、従事者研修を行った。 ○「生きる力」を育む、学校教育の充実については、地域による寺子屋の実施、スクールソーシャルワーカーの配置など学校教育を支える多様な人材活用は効果があると考える。 							
	今後の課題と改善策など	<ul style="list-style-type: none"> ○指標「年少人口の数」については全国的な傾向と同様に減少しているが、本市の出生数の減少を流入人口の増で補っている状況となっている。シティプロモーションが一定効果を上げていると思われる。引き続き、子育て支援を含め、本市の多様な魅力の発信により、定住人口の増加に結び付けていく。 ○子育てしやすい環境づくりに向けた不断の取組が必要である。多様な子育て支援のニーズにこたえていくことも大切であるが、子ども達が愛され、健康に育つ家庭や地域づくりをいかに進めるかも課題であり、支援サービスとともに啓発活動も重要と考える。 ○「生きる力」を育む、学校教育の充実に向けて、学校教育を支える多様な機関との連携やノウハウの継承、地域の教育力を高めるための人材の掘り起し、育成が課題となっている。 							
外部有識者意見	<ul style="list-style-type: none"> ○年少人口の減少を食い止めるための具体的施策を打ち出すために、まずは庁内で、宝塚市ならではの施策がいくつあるのか、それがどのようにアピールできているのかというところを再度点検し、戦略を検討していただきたい。 ○子育て中の方が困っているのは、勿論保育のこともあるが、二人目を産んでも働けるかどうかということである。そこを支援できる打ち出し方があれば、宝塚市の魅力アップに繋がる。二人目の育児については乳幼児期だけではなく、その後の地域のサポートが大事であるが、宝塚市は児童館が充実していることから、そのあたりの魅力が高い。そういった面を打ち出していければ良い。 ○子どもを育て、自分も働き、それでも楽しいまちというアピールをしていかなないと、人の取り合いで負けてしまう。そのようなイメージをもっとアピールできる施策を打ち出していくと良い。 ○施策の展開についてはどれだけ外にアピールできるかが重要である。一般の方々はマスメディアから情報を吸収することが多いため、いかにマスメディアに露出し、マスメディアの力を借りて発信できるかがポイントである。露出するためには尖った施策を打ち出し、さらにそれをどのようにリリースしていくのかという広報戦略を考えて取り組む必要がある。 ○宝塚市では文化的な部分を打ち出そうとしているが、赤ちゃんというよりはむしろ、中高生の子どもを育てるのに相応しい文化的なまちとしてブランディングすれば良い。資源として地域に児童館があり、中高生とも繋がる強みがある。 								
外部有識者の意見を受けての対応	<ul style="list-style-type: none"> ○年少人口の減少に歯止めをかけるため、本市の子育て支援や子どもの居場所の魅力がより伝わるよう、多様な媒体を活用していく。 ○宝塚市は子育てしやすい環境であるとより多くの市民に感じていただけるよう、子ども達の意見やアイデアを市の多様な事業等に活かすとともに、子育て支援施策の推進においては、市民と行政との協働で取り組み、地域の市民力や活動団体を活かしていく。 ○仕事と子育ての両立支援に向けた取組を進めていくために、安心して子どもを預けられる環境づくりを引き続き検討していく。 ○本市の様々な施策の魅力が伝わり、評価に結び付くよう指標の見直しも視野に、次期計画においてKPIのあり方を検討していく。 								

平成30年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略 評価シート【基本目標】

基本目標	2 地域資源を生かした活力ある「まち」								
	<p>*本市の豊かな資源を生かし、まちの個性と魅力を高めるとともに、産業の活性化による雇用機会の創出や就労支援に取り組み、活力あるまちをめざします。</p> <p>*市民が心豊かな生活を送るために、文化芸術やスポーツは欠かせないものと言えます。生涯を通じてだれもが文化芸術やスポーツとふれあい、楽しむことのできるまちをめざします。</p>								
指標	指標	単位	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	目標 (H31)
	観光入込客数	人	8,572,816 (H26年度)	8,550,571	8,434,630	8,601,788	11,789,116		9,173,000
	市内民営事業者の従業員数(経済センサス)	人	51,077 (H24年)	53,197 (H26年)	—	54,498	—		52,000
総合評価	基本目標実現のために取り組んだこと	<p>○他都市(横浜市や大分市など)での観光キャンペーンやアニメフェスタにおいてハンバーガーイベントやコスプレパレードなどを誘致したほか、周遊パス事業などを展開し、観光振興による経済効果創出に努めた。</p> <p>○空き店舗の解消、ブランドの強化、創業セミナーや企業相談の実施、花き植木、牡丹、ダリアなどを含めた農業振興と高齢者の生きがい創出や働く意欲を持つすべての方の就労支援を推進した。</p> <p>○中央図書館で歴史資料展示、講演会、「旧松本邸」で一般公開を実施し、歴史民俗資料館で企画展示等を開催した。スポーツ振興の分野では、スポーツ推進委員、スポーツクラブ21の周知に努め、「市民大運動会」やトップアスリート交流事業、障碍(がい)者スポーツを実施した。</p>							
	効果があった取組など	<p>○宝塚北サービスエリアにおいて本市の特徴を生かした地域の特産品のPRや販売を行ったほか、元タカラジェンヌレビューショーが行われるなど、他のサービスエリアとの差別化を図った。</p> <p>○清荒神参道周辺のにぎわい創出、シニアワークフェアでの高齢者の活躍の場の創出につなげるとともに、新規就農者や新たな営農組合の設立、木接太夫ブランドによる花き植木産業を推進した。</p> <p>○中央図書館聖光文庫展示室での歴史資料展示、「旧松本邸」の一般公開など、参加者は前年度に比して増加した。スポーツ振興・普及の目的に沿った、市民大運動会、フットサルイタリアチャレンジ及び小学校出前教室、障碍(がい)者スポーツなど、参加者が増加した。</p>							
	今後の課題と改善策など	<p>○観光客(来宝者)に周遊いただき、楽しんでいただけるよう宝塚市国際観光協会会員をはじめとする観光振興における関係者とこれまで以上に連携を図っていく必要がある。</p> <p>○空き店舗の解消、宝塚ブランドにおけるシビックプライドの醸成、起業家等支援施設との連携による起業家の支援、エイジフレンドリーシティの取組、新規就農者増を図るための研修施設の設置、収穫体験ツアーや学校給食食材の見直し、宝塚産農産物の販売量の増に向けた取組を推進する。</p> <p>○本市の郷土資料や文化財が目に触れる機会をつくるため、市民への公開を通じた保有資源の一層の活用に取り組み、観光部門との連携を進める。また、より一層のスポーツに関する情報発信に努める。</p>							
外部有識者意見	令和元年度 外部評価対象外								
外部有識者の意見を受けての対応	—								

平成30年度 夢・未来 たからづか創生総合戦略 評価シート【基本目標】

3 健康で安心して暮らせる、住みやすい「まち」									
基本目標	<p>* 子どもや高齢者をはじめすべての市民が、地域のなかで健康で安心して暮らせることができるよう、ハード、ソフト両面において環境を整備し、健康で安心して暮らせる住みやすいまちをめざします。</p> <p>* また、北部地域は、里山と農地が保全されている自然豊かな地域ですが、人口減少と高齢化の進行により生活環境への影響が懸念されていることから、交流促進と定住促進により元気なまちをめざします。</p>								
指標	指標	単位	基準値	H27	H28	H29	H30	H31	目標 (H31)
	市民アンケートの「宝塚市内に住み続けたい」と思う市民の割合	%	79.8 (H26年度)	—	81.3	—	77.1		79.8%以上
	社会増減における転入超過数	人	-305 (H26年度)	130	569	643	80		プラスに転換
総合評価	基本目標実現のために取り組んだこと	<p>○インフラ整備においても市民の声を基に公共交通の拡充の取組や公園リノベーション事業、景観まちあるき活動などの取組を行ったほか、ソフト面では、地域ごとのまちづくり計画の見直しを市職員も加わり進めるとともに、防災、環境、教育、農業産業振興などの分野においても、地域の方々の協働によるまちづくりに取り組んだ。また、エイジフレンドリーシティのモデル事業を通して、人材の発掘や地域で人がつながるためのコンテンツの開拓を行った。</p> <p>○北部地域においては、新名神高速道路や関連市道等の整備とともに、宝塚自然の家、ダリア園、牡丹園の活用を図った。また、集落営農の推進や北部地域の拠点整備、公共交通対策を住民とともに取り組んだ。</p>							
	効果があった取組など	<p>○公園整備、景観活動、防災、環境、産業振興、教育など各分野において、市民とともに取り組む事業は、その成果が、広く市民や地域に還元され、今後の市や地域の財産になっていくとともに、自らの意思により活動に参加した市民一人ひとりにとっての満足度の向上につながることで、結果的に、今後の地域づくり、まちづくりに関わる人材の拡大につながると考えられる。</p> <p>○今後さらに続く少子高齢化傾向と担い手が減少する社会を見据えた場合、地域で活動、活躍する人材の確保、育成は、もっとも大切な要素となることから、行政職員にとっても、地域住民とともに進める事業を通して、市民による地域づくりの一助として行政が関与できることは、非常に意義のある取組である。</p>							
	今後の課題と改善策など	<p>○少子化、超高齢社会への対応として、公共交通をはじめとするハード面での基盤整備や市民とともに取り組むソフト事業は重要であり、より一層の拡充を図る必要がある。その際、市民の中でも、地縁に基づく団体と特定の活動目的を持ったテーマ型活動を行う団体間の協力関係の構築、並びに企業、事業者の参加を視野に置く必要がある。</p> <p>○本市においては、まちづくり協議会ごとの地域づくり計画の策定も進めていることから、地域ごとに関係者が協力し合って取り組む活動のきっかけとして、また、地域での役割や生きがいづくりのきっかけとして各行政分野における市民との協働事業を活用いただけるよう、市民に働きかける必要がある。</p>							
外部有識者意見	令和元年度 外部評価対象外								
外部有識者の意見を受けての対応	—								